

年間第 28 主日 マタイ 22 : 1~14

ユダヤ教では神様が救いを完成してくださる喜びの時を、祝宴になぞらえていました。一方、イエス様は、神の国の到来を、王様が王子のために催した婚宴にたとえます。けれども、このたとえ話は、めでたしめでたしでは終わりません。

今日のたとえ話は、祭司長や地位のある人たちに話されています。彼らは、ユダヤ教のリーダーでした。イエス様の福音を真っ先に理解して、受け入れるはずでした。けれども、このような人たちは、イエス様の呼び掛けに応じません。そこで、イエス様は、神の国の福音を社会から見放されたような人たちに告げるようになります。ユダヤ教の律法を守れない貧しい人、弱い立場の人たちです。物乞いをする人、やもめ、みなしご、奴隷、徴税人、羊飼、売春婦、小作人たちです。彼らは、律法学者たちから「罪人」のレッテルを貼られていました。神の救いの外の人とみなされていました。けれども、イエス様の福音に心を開いたのはこの人たちでした。「徴税人や娼婦の方が、あなたたちよりも先に神の国に入るだろう」(マタイ 21 : 31)

たとえ話で最初に正式に招待状が送られ、丁重に迎えが遣わされるのは「祭司長や長老」です。彼らこそ、神の祝宴を誰よりも待ち望んでいたはずですが。けれども、「私には他に用がある」と避けてしまいます。道端で見境なく連れてこられるのは「罪人」「貧しい人たち」です。元来、神の祝宴に招待される資格がないと思われていた人たちが食卓につくことになります。

ところで、この話はそれだけで終わっていません。「軍隊を送って、この人殺しどもを滅ぼし、その町を焼き払った」と過激な表現があります。初代教会の人たち(新約聖書が書かれる西暦 80~90 年)は、自分たちの状況を加えました。この内容は、イエス様が亡くなった後、紀元 70 年のユダヤ戦争でローマ軍によってエルサレム神殿に火がつけられ、多くのユダヤ人が殺され追放された事件を指しています。このことがきっかけに、イエス様のグループ(ユダヤ教ナザレ派)は、ユダヤ教からはっきり離れることになりました。福音の恵みは、本来の受け手のイスラエルの民を離れて、貧しい人・異邦人に与えられることになりました。

話はまだ続きます。せっかく福音の恵みに与ったキリスト者たちの中にも、イエス様の教えに相応しくない人たちが結構いました。そこで「礼服」の話が加わります。もともとは、イエス様が話されたお話に、歴史的な出来事が加わって、入り組んだ内容になっています。

ルカ福音書では、招待に応じなかった人の理由を具体的に書いています。「最初の方は『畑を買ったので、見に行かなければなりません。』他の人は『牛を二頭ずつ五組買ったので、それを調べに行くところです。また別の人は『妻を迎えたばかりなので、行くことができません』(ルカ 14 : 18~20)

招きを断る理由は、もったもなもののばかりです。私たちも、地位や仕事の忙しさが、招きを断る理由を生んでいるのかもしれない。当時の貧しい人たちが、イエス様の教えに心を開いています。

どこかで、逆転のきっかけがあるのかもしれませんが。それに気づいて、神様の恵みを生かせるように願ってミサを続けましょう。

2020年度 小さき花幼稚園運動会 10月10日

選手宣誓

宣誓。ぼくたちは、運動会の日まで、たくさん練習してきました。今日は、自分が練習してきたことを頑張ります。早く、コロナ・ウイルスがなくなって、元の生活に戻れるよう、今、ぼくたちができることを全力で頑張ります。

感謝の言葉

今日は、最後まで応援してくださってありがとうございました。コロナ・ウイルスでできないこともあったけれど、みんなと力を合わせて、楽しく頑張ることができて嬉しかったです。最後に、優しい心が繋がって、世界中が平和になりますように、お祈りして終わります。

2019年度 小さき花幼稚園運動会

選手宣誓

私たちは、自分の力を信じて、みんなで力を合わせて頑張ります。そして、大きくなった姿を見てもらえるように、元気で笑顔いっぱいの楽しい運動会にすることを誓います。

感謝の言葉

皆さん、今日の運動会はどうでしたか？ たくさんの方に見守ってもらって、今、ありがたい気持ちでいっぱいです。これからの世界が、難民のお友達や困っている人を助けられる優しい世界でありますように、とお祈りしながら、今日の運動会を終わります。